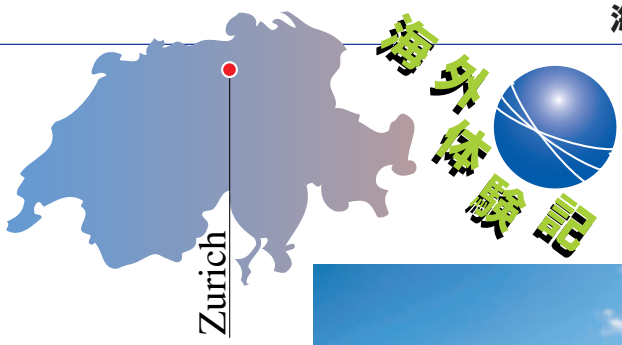
# グリュエッツィ
## ～チューリッヒ大学での2年間～




大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
咬合管理学分野
**薩摩 登誉子** さつま とよこ

2005年4月から2007年3月までの2年間、スイス・チューリッヒ大学に研究留学しました。スイスは「アルプスの少女ハイジ」で有名な国ですが、市街地を外れると物語そのままの緑の牧草地が広がっています。スイスにはドイツ語、フランス語、イタリア語、ロマンシュ語の4つの公用語があり、チューリッヒはドイツ語圏です。ただしスイスのドイツ語はドイツで使われている標準ドイツ語とは異なったスイスドイツ語と呼ばる言語で、単語や文法が異なっている上に地方によって方言があります。タイトルのグリュエッツィ（Gruezi）はスイスドイツ語で「こんにちは」という意味で、標準ドイツ語ではグーテンタータ（Guten Tag）です。ですがそこは国際都市チューリッヒ、多くの外国人が住んでいることもあって大学内だけでなく、街の人達も英語を話せる人が多いので、私はたどたどしい英会話でなんとか2年間を乗り切りました。

留学先はチューリッヒ大学、歯学・口腔医学・顎顔面外科学センター、顎口腔機能障害講座でした。同講座を主任するSandro Palla教授は顎機能に関する研究で著名な先生で、私は「光学式顆頭運動測定器の開発」と「MRI画像からの顎関節部再構築と立体運動の再現」の二つの研究に携わりました。私が今徳島大学で在籍している咬合管理学分野では磁気式の6自由度顎運動測定器の開発をしており、光学式顆頭運動測定器と同様に顎の動きの測定を行いますが、磁気式ではコイルを使うのに対して、光学式ではLEDとCCDカメラを使います。

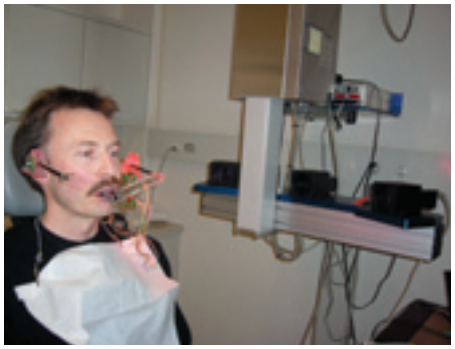
立体運動の再現とは,顎関節部をMRIで撮影して得られた二次元画像から三次元形態を構築して、それを下顎頭と関節窩に分離しコンピュータ画像として運動を表示するというものです。私はこれらの研究のソフトウエアの部分を担当し、歯科医というよりはどちらかというとエンジニアに近い仕事をしていました。

チューリッヒはスイス最大の都市（首都はベルン）ですが、街自体は小さいので海外生活初めての私にとっても、とても住み心地が良いところでした。市内は路面電車が頻繁に走っているので、ショッピングにも通勤にもとても便利でした。スイス全土は鉄道網も発達しているので、日帰りでアルプスの山々を見に行くこともできました。日曜日は安息日のためデパートやスーパーマーケットも閉店していますが、おかげでハイキングしたり友達とご飯を食べたりして,とてもゆっくりとした時間を過ごすことができました。

最後になりましたが、今回の留学の機会を与えて下さいました咬合管理学分野の坂東永一教授、2年間という長期にわたる不在の間に何かとお世話になりました教室員の先生方に深く感謝いたします。

アルプスの山並み 左からアイガー、メンヒ、ユングフラウ

フラウミュンスター（左）と聖ペーター教会（右）


光学式顆頭運動測定器

チューリッヒ中央駅と路面電車

ヴィンタートゥーア近くの森でのハイキング